

に総合的に理解するためには、他の三研究部で得られた知見に加え、物質循環を中心とした大気海洋間の環境を解析する必要があり、この分野の研究者を客員教官として招聘して共同研究を推進するために設けられているものである。

### 5. おわりに

本研究センターは名前が示すとおり理学部附置の施設

であり、研究機関であると同時に教育機関でもあるため、現在、約20名の地球物理系の学部四年生と大学院生が所属し、研究や勉学に励んでいる。もし、本センターで研究を行いたいという希望がある学生は是非大学院に入学されることをおすすめする。本センターの教職員・学生一同、元気のよい意欲に満ちた学生の入学を期待している。

## 第12回風工学シンポジウム開催のお知らせと発表論文の募集について

**[主旨]** 構造物の耐風安全性など、風工学に関する気象・環境・土木・建築・電気などの各分野における優れた研究成果と技術の交流により、風工学およびその関連分野の発展に大きく寄与することを目的として、表記のシンポジウムを下記により開催することになりました。研究者はもとより、設計技術者、現場技術者の方々にもふってご応募下さいませようご案内いたします。

**[共催]** 日本学会会議災害工学研究連絡委員会風工学専門委員会、電気学会、土木学会、日本気象学会、日本建築学会(幹事学会)、日本鋼構造協会、日本風工学会

1. 開催期日：1992年12月3日(木)、4日(金)
2. 会場：建築会館ホール(東京都港区芝5-26-20)
3. 発表論文の募集：

#### (1) 課題

(a)風の性質、(b)環境と風、(c)風災害、(d)気流・風圧・風力およびその制御、(e)構造物の振動およびその制御、(f)耐風設計、(g)計測方法・風洞実験法、(h)その他、風工学に関するもの

#### (2) 応募論文原稿

- 1) フルペーパーによる査読が行われる。採否の判定の基準は査読つきの専門学術誌・技術誌(例えば、共催学協会の論文集)と同程度とする。
- 2) ページ数は6ページ以内(和文論文では英文概要などを含む)の偶数ページとする。
- 3) 英文論文も可とする。
- 4) タイプあるいはワープロなどによってオフセット印刷用完成原稿(フルペーパー)を作成する。

和文、英文の場合とも投稿要領に記載の執筆要領、体裁規則にしたがって作成する。

- 5) 登載が認められた場合、10,000円の登載料を負担する。
- 6) 別刷50部を無料進呈する。別途注文は受けけない。
- (3) 投稿要領・原稿用紙の請求先および原稿提出の締切日

#### 1) 投稿要領・原稿用紙提出先

〒108 東京都港区芝5丁目26番20号

日本建築学会事務局

第12回風工学シンポジウム運営委員会

FAX 03-3456-2058

#### 2) 原稿提出締切日

1992年5月29日(金)午後3時必着。締切り後、ただちに査読作業に入るので遅延は一切認められない。原稿はオフセット印刷用原稿(B4版フルペーパー)のコピー(A4縮小版)を提出することを原則とする。

#### (4) 査読・論文集刊行の日程

投稿要領に詳細に記載されているが、日程の概略は以下の通りである。

- 1) 論文採否・査読意見の通知：1992年8月中旬
- 2) 修正後の最終印刷用オリジナル原稿の提出：1992年9月16日(水)
- 3) 論文集の刊行：1992年11月上旬

問い合わせ先：日本建築学会事務局研究事業課 野口

TEL 03-3456-2051